



がん経験者 講師に派遣

宮崎県小林市の小林商工会議所で4月中旬、「働き世代のがん」という講演会が開かれた。保険会社のアクサ生命が主催。講師は、東京で働くフリーのコピーライター松井亜矢子さん(45)で、自身や両親のがん体験を、集まった30人に語りかけた。



自身や家族のがん体験について講演する松井亜矢子さん(宮崎県小林市の小林商工会議所で)

情報がどこにあるのかわからずに悩んだ日々、手術後も長く続く治療や副作用との闘い、予想以上にかかった医療費――。

松井さんは「大事なのは情報収集と心のケアと経済力です。正しく備えて自分を守り、がんになっても自分らしく生き抜いてほしい」と締めくくった。

松井さんを講師に派遣したのは、がん経験者が運営する会社「キャンサー・ソリューションズ」(東京都)

だ。講演会は、がんについての啓発とともに、闘病で職を失うなどした患者に講演料収入をもたらすし、経済的に支える狙いもある。

2008年から始め、講師として登録するがん経験者は約30人。年齢や職業、がんの種類は様々だ。自身も乳がん経験者である社長

の桜井なおみさん(45)は「患者本人にも、正しい情報を伝えるという使命感をもたらすプラス面がある」と言う。科学的に証明されている情報だけを発信するよう徹底している。

企業や市民団体からこれまで500件以上の依頼を受けた。全社員向けの研修に加え、営業の一環としても依頼してきたアクサ生命は、「聴衆に訴える力があり、その後の問い合わせも多い」と効果を語る。

松井さんは00年8月、父親を急性骨髄性白血病で亡

くした。どんな病気かわからず、治療の選択も流されるまま。痛みも十分抑えることができず、家族として強い後悔が残った。

左胸にしこりを感じたのはその3か月後。だが何科にかかったらよいか迷うなど、乳がんと診断されるまで2年近くかかった。

「父が残してくれた教訓を何も生かしていない。自分の命なのに」

手術直前、はっと気づいた。情報を必死に集め、納得できる治療を求めて転院した。会社を辞め、治療をほぼ終えた07年、医療情報を伝えるための講習も受け、講演活動を始めた。「後に続く患者が悔いを味わうことのないよう、経験から得た教訓や正しい情報を伝えたい」と願ったからだ。

最近3月3、4回、全国の市民セミナーなどで講演する。「治療で会社も辞め、挫折感も味わいましたが、新しい生きがいを見つけた」と話す。

(このシリーズは全4回)

「病院の実力」がiPhone、iPadのアプリになりました。購入はアップストアで